

復活日 イースターと卵とイエス様

イースター、おめでとうございます。

でも、どうしてイースターを私たちはお祝いするのでしょうか？
クリスマスだったら、イエス様の生まれた日、ということで、わたしたちにとてもわかりやすいお祝い
です。私たちの周りに、赤ちゃんが生まれる、というのは、よく体験することです。

それじゃ、イースターは、イエス様に何が起こったのでしょうか？
イースターは、十字架に架かり、私たちのために、御自分の命を献げてくださったイエス様が、復活さ
れた日です。

では、復活とは、どういうことでしょうか？

「復活された」というのは、「十字架の上で死んだイエス様が、もう一度生き返ってくださった」とい
うことではありません。

大切なことだから、覚えておいてください。
それは「イエス様が、新しい姿に生まれ変わって、私たちの所に来てくださった。」ということです。

このことを理解するために、教会の洗礼堅信準備の本では、毛虫がさなぎになって、やがて美しい蝶々
にかわることにたとえたりしました。不自由に地面を這っていた毛虫が、死んだかのように墓のような
さなぎの状態ではばらくいましたが、地面を這わなくても、自由に飛んで行ける蝶になることをたとえ
に使われたりしました。復活したイエス様が時間や空間から自由になってあちこちに姿を現して、私た
ちを励ます存在になるのです。

しかし今日は、卵を例に挙げて話しましょう。
鳥は子どもを産むのに、卵で産みます。卵には鳥の命が入っています。
卵はそれ自身では動かないし、きれいな声で鳴いたりもしません。
ところが、大切に温められた卵は、殻の中で雛に成長し、殻を割って、外の世界に飛び出します。

命を持って生まれた卵は、親鳥に大切に温められて、もう一度、新しい姿に生まれ変わって、世界に飛
び出すのです。

その様子が、イエス様の復活の様子とよく似ていることから、卵・イースターエッグが復活の喜びのシ
ンボルになったのです。

クリスマスに世界の人々の救い主として私たちの世界にお生まれになったイエス様は、私たちが神様と
の約束を守れない、勝手な人間であることを、神様に赦してくださるよう、お願いしていただきまし
た。それも、御自分の命を献げて、一生懸命お願いしてくださったのです。

それが、イエス様の十字架の出来事です。

十字架の上のイエス様は、死んでしまわれたので、それでイエス様の命も終わってしまったように思われました。

けれども、そうではありませんでした。

イエス様は、卵がかえってひよこになるように、新しい姿に生まれ変わって・復活されて、私たちの世界に来てくださいました。

その「新しい姿」は、私たちをいつも応援してくださる神様の「心」。私たちを神様の子どもにしてくださる神様の「力」という姿です。

この姿は、私たちに、人を大切に思わせてくれる「優しい心」です。

それは、私たちに、人と仲直りをさせてくれる「勇気」です。

それが、復活されたイエス様の新しい姿なのです。

私たちが人と共に生きる喜びを知ることができるのは、復活されたイエス様が私たちの傍にいてくださって、人を大切にする心をいつもわけてくださるからです。

人が赦された時、人を赦すことができた時、私たちが暖かい心になれるのは、復活されたイエス様が、私達の傍らにいてくださって、いつも人を赦す勇気を与えてくださるからです。

祈りの内に私たちが安らぎを覚えるのは、復活されたイエス様が、私たちの傍らにいてくださって、いつも神様を大切に思う「愛」を与えてくださるからです。

イエス様の命は、十字架で終わることはありませんでした。

イエス様の命は、いつでも、どこにいても、私たちと一緒にいてくださって、私たちに神様の愛を分けくださるのです。

イースターは、仲間と一緒に、そのことを喜ぶ日です。